

最終報告

**中学生防災隊
プロジェクトチーム
わが故郷は自分たちの手で守る！**

愛知県安城市
安城防災ネット&根崎町自主防災会

私たちのチャレンジ！

中学生は、
災害が起こった時、地域で役立つ力を持っている。
そこで 地域自主防災会と協力して
中学生防災隊を結成する。

**中学生防災隊が
地域の防災訓練に参加し**



防災力になる！

中学生防災隊が地域の防災力になるために！

- ①中学生防災隊が地域自主防災会で結成可能か
- ②中学生から見た地域防災活動の魅力は何か
- ③地域の側から見た中学生防災隊の受け入れ効果は何か



- ④安城防災ネットが果たす役割は何か

検討を重ねる

中学生防災隊を結成し、中学生が、自分たちの地域に溶け込んで自発的に、活動できるようにするための課題を出し。解決策を話し合いながら、取り組みました。

中学生防災隊結成を可能にするために！

◆昨年2月の発表と中間発表で頂いたコメントを元に、改善に努めた。

コメント1: 中学生防災隊の募集方法の工夫

取り組み: 1 チラシを作り直す。2 募集方法の工夫。3 募集地域の拡大。

コメント2: 中学生の自主性・積極性を引き出す。信頼関係を築く。

取り組み 1 中学生の特徴を知る。2 指導法の統一、指導者のレベルアップ。

3 中学生の興味と意見を取り入れた啓発メニューをつくる。

コメント3: 受け入れる自主防災会とのコミュニケーションの強化

取り組み 1 防災会議で対等に意見が言える環境作りを工夫する。

2 町内文化祭で防災隊の活動を紹介するなど広報の仕方を工夫する。

コメント4: 地域の消防団との交流、連携した活動

取り組み 1 消防団員から直接消火方法の指導を受けるなど交流連携を工夫。

実際に活動する中で、さまざまな難関にぶつかりましたが
昨年2月の活動紹介と中間発表の際、
専門家の先生方からいろいろなコメントを頂きました。
特にこの4点の改善に努め、より良い活動の実施を目指しました。

中学生防災隊を結成するための2つの難関

中学生防災隊の応募者が少なすぎる！

- 1回目の応募者 3年生 3人
工夫 1、チラシの作り直し → 中学生に関心のある内容に変える
- 2回目までの応募者 3年生 12人
工夫 2、募集方法を変える → 町内会の回覧板を活用する
募集範囲を近隣の学区に広げる
- 3回目までの応募者 1年生 17人 2年生 7人 3年生 16人

中学生との付き合い方が分からない！

- 努力 1、中学生を知る。 → 中学生の長所を出し合う。
→ **長所を活かせる活動メニューを提供する！**
- 努力 2、中学生から信頼される → スタッフの指導力を高める
→ **真剣に向き合い、誠意を持って接する！**
- 努力 3、顔の見える関係を作る → **直接声をかける。きっと気持ちは通じる！**

最初の難関は、

中学生防災隊の応募者が少なすぎたことです。

防災隊が集まらないと この事業は進められませんので、

募集チラシの作り変えや、町内の回覧板を使うなど

募集方法を改善した結果、

最終的に42人の応募者がありました。

二つ目の難関は、中学生との付き合い方が分からないことでした。

できるだけ中学生の長所を出し合い、引き出す工夫をし、

また スタッフの指導力アップを図りながら

大人と同様に真剣に対峙し、

彼らの興味や、意見を取り入れた活動メニューを用意するなど

工夫をすることで、信頼関係を築くことができました。

自主防災会の取り組み 中学生防災隊とのコミュニケーションの強化

根崎町自主防災会・城ヶ入町自主防災会・榎前町自主防災会



共に考え、課題を共有する



地域の一員として防災会議に



町内文化祭で活動を紹介



自主防役員と交流の機会を



防災訓練で十分に力を発揮し、参加した住民から大好評を得た

6

私たち自主防災会が、中学生防災隊に期待したことは、地域の防災訓練に参加してもらい、地域住民と共に元気に活動し、地域に活力を与えてもらうことです。

自主防災会の役員は高齢者が多く、中学生との付き合いが少ない人も多いことから、中学生防災隊と、役員たちが交流できる機会を、多く作りました。

防災訓練に参加した住民からは、従来の防災訓練と違い、活気があり、耐震改修の必要性や、防災クラフトなど防災に役立つ情報を教えてもらい、大変よかったと喜ばれ、大好評で、期待以上の成果を出してくれました。

今後は、中学生防災隊に活躍してもらおう場面を増やし、地域の絆づくりの中心になってくれることを期待しています。今後は、中学生防災隊の取り込みを、近隣の自主防災会にもひろめたいと思います。

私たち中学生防災隊は

明祥中学校 親子防災講演会で！

入隊を決意！

講演を聴いて、66年前に三河地震が起きて、私たちが住んでいる明祥中学区だけでも、220人の死者や多数の重軽傷者・多くの倒壊家屋の被害が出たことなど、自然災害の恐ろしさを知りました。災害が起きた時、起きる前に、地域のために、何か出来ることがあると思って、中学生防災隊に入りました。

中学生防災隊の結成式で！



- 自主防災会長・中学校より激励の言葉
- ★中学生防災隊隊員証
- ★中学生防災隊のベスト
- ★IDカード付ホイッスル

地域の防災力に
なろう！

防災隊
の
自覚

7

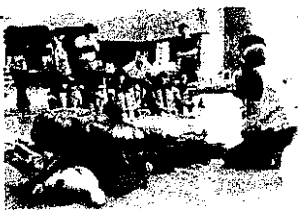
私たち中学生防災隊は、
地域の人たちに、防災について関心を持ってもらい、
いつ起こるかわからない災害に、備えてもらう目的で、活動しています。

明祥中学校の防災講演会で、66年前に起きた三河地震では、
私たちの住んでいる明祥地区だけでも 220人の死者が出るなど
大きな被害を受けたことを知り、自然災害の恐ろしさが分かりました。
災害が起きたとき、私たち中学生も、
役立つことがあると思って、防災隊に入りました。

下の写真は中学生防災隊結成式で、自主防災会の方から、
防災隊アイテムを渡されたときの写真です。

そのとき、握手をしてもらい、私達は期待されているのだと感じました。
そして、中学生防災隊として、地域のために頑張ろう、と決意しました。

観て・聴いて・体験して！ 災害をイメージする



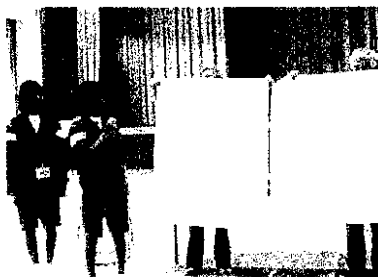
観て！……ケガ人の救出救護のデモを観て
聴いて！……三河地震・伊勢湾台風の被災体験を聴いて
体験して！……模擬避難所の食事場で非常食を体験して
災害が起きたときのようすをイメージする！



ワークショップ 中学生防災隊がやる事・出来る事



災害が起きた時・起きる前に
中学生防災隊がやることは？
出来ることは？
地域の防災力になるために
何をすればよいか？



話し合ったことを発表し合い、共有する。

8

ワークショップでは、観て・聴いて・体験して、
災害をイメージすることが出来ました。
災害が起きたとき、起きる前に、中学生防災隊は
何をしたらよいか？ 何が出来るか？など。
みんなで意見を出し合い、グループ毎に発表しました。

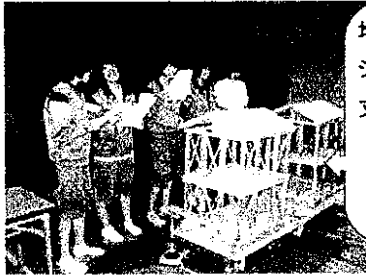
大災害が起きる前に、出来ることは、
地域みなさんに「防災」に関心を持ってもらい
災害から命を守る備えをしてもらうことです。

災害が起きた時は、要援護者の安否確認や、非常食の準備など、
私たちにできることも、たくさんあることがわかりました。

防災啓発の知識と技を学ぶ

防災体験講座 2会場

8/16(月) 8/21(土)



地震に強い家ってどんな家？
シナリオを片手に、
丈夫な家について説明する。
台車ぶるるを動かして
筋かいが有り無しで
ゆれ方が大違い！

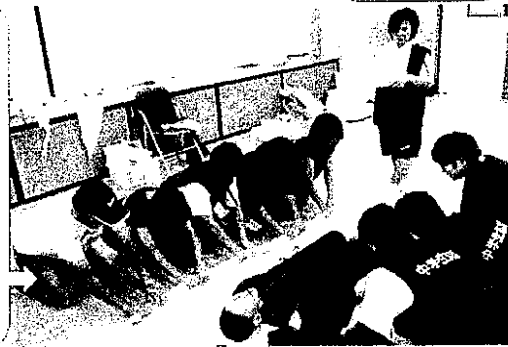


災害にけが人はつきもの
身近にある物で
応急手当を！ 頭部は
ストッキングを使って



身近にある物でのぐ工夫を！

ここで体験した
「毛布だけの搬送法」は、
町内の防災訓練でケガ人の
搬送訓練で、役立った。



地域の人たちに、防災に関心を持ってもらうためには、
自分たちが、防災について知らなければなりません。

防災体験講座で、防災啓発の知識と技を教えてもらいました。

「台車ぶるる」を使った説明では、耐震補強の大切さを知りました。
また、身近にある物を工夫して、被災後の暮らしに役立つ物が、
作れることを知りました。

ここで学んだ一番重要なことは、

「自分の命と家族の命を守れて、人を助けることができる！」と
いうことです。

市内のイベントで、防災啓発活動を！



南部公民館まつりで

経験を積んで！



安城市福祉まつりで



東端町防災訓練で



安城市総合防災訓練で



榎前町内運動会で

防災体験講座で学んだことを活かして、
安城市総合防災訓練の会場をはじめ、
いくつかのイベント会場で、
実際に、防災に関心を持ってもらうための 活動を行いました。

防災体験コーナーでは、初めは説明するのが難しかったですが、
教えていく中で、教えるコツのような事がわかってきました。
ロープワークについては、自分ではできるのですが、
相手にやってもらうために
どのように伝えたらよいのか分からず、とても難しく感じました。

根崎町防災訓練

12月4日

わが故郷は自分たちの手で守る！

今までの学びを活かし、自主防災会と協働で実践した



AED体験

- ・防災コーナー
- ・消防団と交流
- ・自主防災役員と連携活動
- ・初期消火訓練
- ・AED体験



ポンチョ作り



ロープワーク



素足歩行体験担当の役員さんと連携して



初期消火訓練



スリッパ作り



炊き出し班



台車ぶるる

11

中学生防災隊は、それぞれの隊員が地元の防災訓練でがんばりました。

根崎町防災訓練では、防災会議で、自分たちがやりたいことを提案し、自主防災会に受け入れてもらうことからスタートしました。私は、ロープワークを担当し、地域の人たちが、私たちの話を聞き、熱心に覚えようとしている姿が、印象的でした。

素足歩行体験では、ふだん、素足で歩かないところを歩き、予想以上に大変だとわかり、危険物がいっぱいの災害時は、靴やスリッパが必要だと実感しました。

体験コーナーでは、自主防災会役員が、コーナーに一人ずつ、ついてくれて役員さんたちと一緒に活動しているという、連帯感がありました。消防団とは、防災クラフトを教えたり、消火器の使い方を教えてもらうなど交流し、若者が地域を守るんだ。という気持ちになりました。

町内の人たちから、「ためになることを教えてくれてありがとう！」と声をかけてもらい、関心をもってもらえたことを実感しました。

榎前町防災訓練 わが故郷は自分たちの手で守る！

12月12日

今までの学びを活かし、自主防災会と協働で実践した



要援護者を避難誘導



救護所の受付



ケガ人介助訓練



救護所の情報を掲示



毛布搬送法を指導



情報伝達班が掃着した



防災体験コーナー



消防団と交流

- ・安否確認
- ・避難誘導
- ・救出救護
- ・救護所運営
- ・一時避難所運営
- ・情報伝達訓練
- ・初期消火
- ・消防団との交流
- ・防災体験コーナー



12

榎前町防災訓練では、

1～2年生の隊員が活躍しました。

発災型訓練では、防災体験講座で学んだ、応急手当法や、毛布の搬送法が役立ちました。

他に、毎日自転車通学している強みを活かして「情報伝達と収集の訓練」や、「一時避難所と救護所の運営訓練」など、初めての訓練にも積極的に挑戦し頑張りました。

防災訓練で、地域の大人たちが一人前に扱ってくれたことがとてもうれしかったそうです。

来年度は、新しい隊員を迎えて、活動を充実させたい！と意気込んでいます。

城ヶ入町防災訓練
12月12日

わが故郷は自分たちの手で守る！
安城市消防団城ヶ入分団と一緒に活動



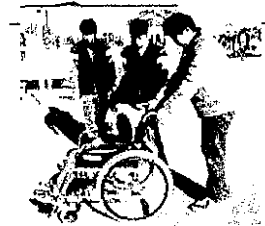
要援護者の避難誘導訓練

- ①明祥地区社協職員より、車椅子介助法の指導を受ける。
- ②防災訓練に参加した町内住民に教える



ケガ人の搬送訓練

- ・毛布と棒を使って、応急担架作りを体験。
- ・ケガ人役になることで、
→ケガ人の気持ちが分かる。



私たちが、自主防災会の一員として活動したことで、
防災に関心の薄かった町内の人たちが、防災に関心を持ってくれたことが
一番うれしかった♪
今後は、地域の伝統となるよう後輩に引き継ぎ、応援していきたい！

13

城ヶ入町防災訓練は、
消防団と一緒に、要援護者の避難誘導訓練や
救出救護訓練に参加しました。
地域の人たちの注目を浴び、
自分たちの活動を認めてもらえたという充実感がありました。

中学生防災隊は、どの地域の隊員も、
自主防災会の一員として、受け入れられ、地域とつながり、
地域の人たちに活動を認めてもらえた。という 自信と誇り
そして、地域の人たちが防災に関心を持ってくれた事で
目的を達成できたという喜びを感じました。

私たち3年生は、この春卒業しますが、
地域みなさんに、頼りにされる中学生防災隊を継続できるよう、
後輩に引きつぎ、応援したいと思います。

中学生防災隊プロジェクト事業協力機関

- ・安城市防災危機管理課 ・安城市学校教育課
- ・安城消防署安城西出張所 安城市消防団 南部地区3分団
- ・安城市立 明祥中学校 ・安城市立 安城西中学校 ・安城西中学校PTA
- ・南部公民館 ・西部公民館 ・安城市社会福祉協議会
- ・安城市自主防災組織連絡協議会 ・安城南部地区自主防災会
- ・明祥地区社会福祉協議会 ・西部地区社会福祉協議会
- ・安城・暮らしと耐震協議会 ・ウッドピタ工法協会
- ・安城生涯学習まちづくり企画人 ・安城昭和の語り部の会

これからもこのつながりを大切に、活動を続けたいと思います。

中学生防災隊プロジェクトチームを、応援して下さった機関です。
安城市をはじめとして、
多くの産・官・学・民が、協力して下さいました。
今後もこのつながりを大切に、活動していきます。



中学生防災隊と共に！

次年度は、あいちモリコロ基金活動助成事業で
中学生防災隊プロジェクト活動をした3町自主防災会を
モデル地区として、南部地区自主防災会に展開する。

◆その後も、活動を継続し、いずれは市全域、
近隣の市町にも展開する事をめざします！

ご支援

ありがとうございました！

15

来年度以降も、この中学生防災隊育成活動は継続します。
この活動は、中学生に地域の防災の担い手として、
役立ってもらうだけでなく、
地域の住民が、中学生に関心をもって見守ることで、
青少年の健全育成にもつながることが期待できます。

またこのチャレンジプランで作成したプログラムとテキストは、
見直しをしながら完成させ、
安城市全域、他の市町への情報展開を目指します。

これで
中学生防災隊の活動発表を終わります。

ご支援 ありがとうございました。